

# いもう 葦毛通信



平成 27 年 10 月 13 日  
豊橋市文化財センター  
TEL : 0532-56-6060

No. 28

スイラン

## 1、2015 モニタリング報告ー6

### J地点

J地点では、平成 25 年度に 1 カ所、平成 26 年度に 8 ヶ所の小規模実験区を設定しました。葦毛通信 No. 20 の「2、平成 26 年度中間報告ー5」では、平成 26 年度に設定した実験区を J-1～8 地点として報告しましたが、平成 25 年度に設定した実験区を J-1 地点として、平成 26 年度のを J-2～9 地点に訂正しました。いずれの実験区も遷移が進み堆積した表土を剥いで、埋土種子からどのような植物が発芽するのかを観察しています。

3月の作業終了後は、木を伐り、草を刈った直後で、植物も見られず、荒れた状態でした（下左の写真）。しかし、現在は様々な植物が発芽しています。湿ったところでは、イグサやカヤツリグサの仲間、ヌマガヤ等が見られます。乾いたところでは、フモトスマレなどが発芽しています。ネザサもまばらに出てきました。また、葦毛通信 No. 23 で紹介したように、葦毛湿原では 30 年以上前に地上絶滅していたサワオグルマも復活しました。その場所は、以前サワオグルマが確認されていたところではないという情報もあります。もしそうであれば、さらに昔の埋土種子から復活したものである可能性が高くなります。

しかし、春に開花する植物には成長の時間が足りなかったようです。来年の春には、明るくなった森の林床に多くの植物が出現することを期待しています。



J地点北端（北から、3月22日）



J地点北端（北から、10月9日）

### J-1地点

J-1地点は愛知県絶滅危惧 I A 類のカガシラが自生していた地点で、カガシラの復活を目的に表土を剥いだところです。作業前はネザサが優勢になっており、剥いだ直後の状態は、葦毛通信 No. 11 の 3 頁目に写真があります。白い石の周囲の表土（ネザサの根の層）を除去しました。表土を剥いだところは水面より高く乾燥しており、作業 1 年目は、周囲よりも植物の発芽がかなり少ない状態でした。トウカイコモウセンゴケ等がわずかに見られ、礫が目立つ裸地の状態でした。しかし、2 年目の今年は、イヌノハナヒゲが大量に出現して、地表の礫が見えなくなっています。写真中央の薄い黄緑色の部分です。写真奥の部分がやや高くなっており、手前は低くなってミズゴケで埋まった水道になっています。



J-1 地点 (西から、9月15日)



J-2 地点 (北から、9月15日)

### J-2地点

J-2 地点は、木道から離れた湿地内部でネザサ群落になっているところです。1×1 m程の範囲でネザサの根の層を 25 cmほど除去しました。根の層の下は黒色粘質土があり、水が湧き出して実験区全体が冠水しました。排水の溝を掘ることができなかったので、水が引かない水溜り状態で、全面に藻類が繁茂し、ほとんど植物は発芽していません。周りはネザサが復活し、木道からは見えなくなっています。写真は少し水が少ない状態ですが、落ち葉が溜まっています。

### J-3地点

J-3 地点は、木道脇に設定しましたが、ここもネザサの根の層を 25 cmほど除去しました。根の層の下は黒色粘質土があり、水が湧き出して実験区全体が冠水しました。冠水したままでは、植物の発芽が少ないと予想して、北西隅に排水のための細い溝を掘りました。

排水はできるようになりましたが、途切れることなく湧出する水の量が多く、常に浅く冠水しているような状態でした。ここから、ミミカキグサが大量に発芽し、開花しました。ムラサキミミカキグサも一部で見られ、現在でもミミカキグサは開花しています。周囲はネザサ群落でミミカキグサは見られませんので、発芽したミミカキグサは埋土種子から復活したものと考えられます。水分条件がミミカキグサに最適な状態になったためと考えられ、実験区のほぼ全面に見られます。これ以外にはイグサの仲間がわずかに発芽しました。

この結果から、J-2・3 地点の周辺はほとんどネザサの群落になっていますが、ネザ



J-3 地点 (西から、9月15日)



J-3 地点拡大 (ミミカキグサ)

サの根を除去すれば、ミミカキグサが多く見られるA地点のような湿地の状態に戻る可能性が高いことが分かりました。また、埋土種子は環境が変わって2～3年たってから発芽するものもあるようです。来年、この状態が維持されるのか、あるいは別の種類の植物が発芽してくるのかを確かめたいと思います。

#### J-4地点

J-4地点は、J地点東側の沢近くに実験区を設定し、ネザサの根の層を20 cmほど除去しました。この層はJ-2・3地点と同じ黒色粘質土層ですが、ネザサの根の層の下層は、1 cm以下の細かな礫が多い灰色砂礫層で、上層の黒色粘質土層がJ-2・3地点よりも薄くなっていました。

J地点は南が高く北に向かってわずかに低くなっています。中央はわずかに高い尾根状で南北に延びており、東西両側が沢になっています。J-4地点も水が湧き出したので東側の沢に水が抜けるように排水のための溝を掘りました。J-2・3地点ほどではありませんが、湧水があります。ここではJ-2地点と同じように藻類が繁茂してヘドロ状に溜まっています。イグサの仲間がわずかに発芽しましたが、これ以外にはほとんど植物は発芽していません。

湧水があるのは、J-2～4地点だけで、J-4地点から北側は、わずかですが傾斜が緩やかになっているように見えます。つまり、湿地として復元できるのは傾斜変換点のJ-4地点あたりまでで、これよりも北側は、東西の沢沿いの水分の多いところは湿地になっても、中央部は乾燥して湿地にはならないようです。

#### J-5地点

J-5地点はJ-4地点の北側に設定しました。15 cmほどの表土層を除去しましたが、この表土は明灰色土層で、J-2～4地点の黒色粘質土層と異なり湧水はありません。おそらく水分条件の違いと土層の違いが対応しているのだと思います。表土層の下は灰色砂礫層で乾燥気味です。現在は落ち葉が目立っており、植物もほとんど発芽していません。



J-4地点（南から、9月15日）



J-5地点（西から、9月15日）



J-6地点（西から、9月15日）

#### J-6地点

J-6地点はJ-5地点の北側に設定しました。地層の状況はJ-5地点と同じで、15

cmほどの表土（暗灰色土層）を除去すると、下層には灰色砂礫層がありました。植物の発芽もほとんど見られません。

### J-7地点

J-7地点は、J-6地点の北側で、西側の木道の近くに設定しました。20 cmほどの表土（暗灰色土層）を除去しましたが、わずかに湧水が見られました。東に向けて排水の溝を掘りましたが、常に冠水しているわけではなく、湧水量は少なく、枯れている時も見られます。木道は西側の水道（沢）沿いにあるので、雨が降って水量が多くなると西の沢からあふれて流入するようです。ここは、鉄分が多いようで、浅い水溜り状になると鉄細菌による鉄の酸化被膜が見られます。植物は湿った部分にわずかですがイグサとカヤツリグサの仲間が発芽しました。また、周りから流入した土からはアギスミレが発芽しています。



J-7地点（東から、9月15日）

### J-8地点

J-8地点はJ-7地点の北側の木道の近くに設定しました。15 cmほどの表土（暗灰色土層）を除去しましたが湧水はありません。しかし、西側の沢に近く、雨が降って水量が多い時は冠水し、湿っていることが多いようです。J-7地点と似た状況です。ヤマイとカヤツリグサの仲間が発芽しました。



J-8地点（西から、9月15日）



J-9地点（北から、9月15日）

### J-9地点

J-9地点は自然歩道沿いのJ地区北端に設定しました。ここは、水からも遠く、乾燥しており、湿地性の植物が出現することは無いと思いましたが、他の地点との比較のために最も乾燥しているところに実験区を設定しました。

除去した表土層は15 cm位の灰褐色砂礫層で、下層も明灰褐色砂礫層で乾燥しており、他の地点と少し異なっています。雨が降っても冠水することはなく、常に乾燥して水はけが良い状態でした。植物はほとんど発芽せず、実験区の周りにあるササクサがわずかに発芽しました。また、J-8地点とJ-9地点の間では、フモトスミレが一面に発芽しました。今春は開花しませんでした。イノシシにより一部が攪乱されてしまいました。それでも来春には元気に開花してくれると思います。